



## 数字で見るセカンドハーベスト名古屋2017

### 提供した合計食数(換算数)



個人や企業から寄付いただいた食品を食数に換算すると、1,424,289食にも相当します。

※すべての寄付重量から、飲料・水を除き1人が1日生存するのに必要な量から算出

### ボランティア活動時間



私たちの活動はボランティアスタッフに支えられています。食品の引き取りや仕分け、個人への食品の箱詰め作業など 想いを込めて活動いただいています。

### 食品寄付企業・団体数(累計)



2008年の活動開始から、累計で387社の企業・団体から食品寄付をいただきました  
(2017年11月時点)

### 食品支援の仕組み 自治体連携率



東海3県で行っている行政と連携した個人への食品支援の取り組みは、自治体との連携率が95%になりました。(2017年11月時点)

## 食品を「集める」取り組み



### 食品取扱量

年間約 **450** トン

2017年度は企業・団体や個人から寄付いただいた食品約450トンが必要とされる方々にお届けしました。昨年度の400トンより50トン増え、寄付いただいた企業・団体数も昨年度より30社増の170社となりました。



2017年には、冷凍・冷蔵庫を新たに1台ずつ購入し、冷凍・冷蔵品の取り扱いが増えました。特に肉や

取り扱っている冷蔵食品の一部 魚、乳製品などニーズが非常に高かった栄養価に優れた食品を多く取り扱えるようになりました。

## 食品を「届ける」取り組み



### 団体支援事業

年間約 **200** 団体

2017年度は主に東海地方にある約200団体へ食品を提供しました。

配布先の団体は、例えばホームレス支援団体や母子生活支援施設、障害者支援施設、児童養護施設など多岐に渡ります。それらの団体では、支援対象の方々へ食事を毎日提供している場合があり、そこでの食事に2HNから提供した食品を利用いただいています。それによって、食事の質的向上や食費の削減につながっています。(実際の利用例は p.3のパートナー団体紹介をご覧ください。)

### CONTENTS

2017年度実績……	p.1~2	パートナー団体紹介……	p.3
ボランティアインタビュー……	p.4		



## 個人支援事業

年間約 **4,600** 件

生活に困った方の自立を支援するため、全国に約900の相談窓口が設置されました。2HNでは、自治体が設置した東海3県の相談窓口と連携し、個人に対して食品を届ける取り組みを行っています。2017年度は延べ約4,600件、約3,200世帯へ食品をお届けしました。支援件数は、2015年：1,954件、2016年：3,720件と、年々急増しています。理由としては、連携する自治体が増えているためです。



食品詰め合わせの例

2017年度には新たに9団体との連携が始まり、東海3県において9割以上の地域をカバーするまでに至りました。

## 支えていただいた方々



## ボランティア

約 **30** 名

2HNの日常の活動は、正会員のうち約30名の方々にボランティアとして担っていただいています。食品の引き取りのドライバーや、生活に困った方への食品の箱詰め、イベントでの広報活動など様々な役割があります。20～70代の幅広い世代の方に日々ご活躍いただいています。



日々の活動を支えているボランティアのみなさん



## 個人からの食品の寄付

年間約 **28** トン

2017年は、新聞・テレビなどのメディアで取り上げられる回数が多く、これまで2HNを知らなかった方に知ってもらう機会となりました。それに伴い、個人からの食品寄付の量は過去最高となりました。特に、夏ごろに米の在庫不足から新聞などで呼びかけを行ったところ、1か月で9トン（昨年のお米寄付量の約半分）ものお米の寄付が集まり、危機を乗り切ることができました。

あわせてお金の寄付も多くの方にご協力をいただき、個人からの寄付金額は2016年度の約3倍にもなりました。寄付金はフードバンク活動を行う上で必要な食品の運搬・保管、倉庫の維持などの費用として使わせていただきました。



## フードドライブで集まった食品

年間約 **7** トン

「フードドライブ」とは家庭で余った食品を学校や職場、イベント会場に持ち寄り、まとめて地域の福祉団体やフードバンクへ寄付する活動のことです。



愛知県主催の  
フードドライブの様子

2HNでは市民が気軽に参加できる社会貢献活動としてフードドライブを推進してきました。2017年度には、名古屋市と連携して定期的なフードドライブを始めました。また、愛知県や豊田市、長久手市などの自治体・社会福祉協議会とも連携して、イベントで市民から食品を集めていただきました。中学校・高校や企業で実施した例もあり、地域・世代にかかわらず多くの市民の方に参加いただけるよう、来年以降もフードドライブを推進してまいります。

※2017年度実績値は、1～11月までの実績に基づく推計値

## 特集 野の花 (代表：島しづ子)

住宅街の中の一軒家、ここが今回ご紹介する「野の花」です。この場所では、週に2回、ホームレスの方々のための「居場所」を提供しています。家の中では、食事や休憩場所の提供に加えて、洗濯機やお風呂を利用することができます。



運営されているのは、名古屋市内で生活困窮者支援を行う特定非営利活動法人「からし種」や他賛同者の方々です。野の花の運営を始められたきっかけをスタッフの佐藤康光さんに伺いました。

「他団体が同じような場所を提供されていたがなくなってしまったので、昨年夏から任意団体として始めることにしました。ホームレスの方々は、常に緊張状態を強いられて安心できる場がありません。屋内の温かい場所で横になれたり、食事をとったり、お風呂に入ったりと、ほっとできる時間を提供するために運営をしています。」

「他団体が同じような場所を提供されていたがなくなってしまったので、昨年夏から任意団体として始めることにしました。ホームレスの方々は、常に緊張状態を強いられて安心できる場がありません。屋内の温かい場所で横になれたり、食事をとったり、お風呂に入ったりと、ほっとできる時間を提供するために運営をしています。」

現在、1日に約15名のホームレスの方が野の花を訪れ、時間を過ごされていきます。野の花で大事にされているのは、「誇りの復活」です。

「私たちは『ホームレス』であることを支援しているわけではなく、『ホームレス



からの脱却』を支援しています。ホームレス生活をしていると、服など様々な物が使い捨てになりがちです。ですが、物を使い捨てることは、心も使い捨てていることと同じことです。ここでは洗濯機を利用してもらって、自分の服を大事に使ってもらえるようにしています。また、服も体も清潔であることは、周りの人からの目も変わ

わるきっかけになります。こうした小さなことの積み重ねで、自分自身の誇りを復活してほしいと考えています。」



ホームレスからの脱却支援として、専門的な知識を持ったスタッフが就労や居宅、公的な支援受給のための相談も受けています。すぐに踏み込んだ話ができない場合にも、野の花に通ってスタッフと少しずつ信頼関係を積み重ねて、自立に向けた話ができるようになることもあります。最近では利用者が運営にも協力してくれるようになり、提供する食事のメニュー作りや調理などもスタッフと一緒にしています。奉仕を受けるだけではなくする側にまわりたい、自然とそう思うようになる人も多いそうです。



2HNの食品は、野の花で提供される食事に利用いただいています。お伺いした日は、お渡しした野菜や惣菜などを使って、ごはん、みそ汁、レンコンのきんぴら、白菜のからし合えなど野菜たっぷりのメニューでした。

「食事があることで会話がはずみますね。また、2HNからは野菜や肉などの食材や調味料をいただいています。その分の運営経費を浮かすことができ助かっています。」

野の花のおいしい温かい食事は、単にお腹がいっぱいになるだけではなく、日々緊張状態にあるホームレスの方々の気持ちをときほぐす効果があると感じました。



## ボランティア インタビュー



私たちの活動は20~70代のボランティア約30名により支えられています。今回はご自身でも東日本大震災の被災地へ野菜や卵などの食品を届ける活動をされているボランティアの松岡さんにインタビューしました。

Q：フードバンクを最初に知ったきっかけは何ですか？



松岡さん

ある若い男の子から教えてもらいました。元々その子は東日本大震災被災地へ規格外野菜を届ける活動をしていて、その活動が新聞で紹介されたのを見てカミナリが落ちました。「自分がやりたいことはコレだ!」と。

すぐに仲良くなった私たちは色々な話をするなかで、同じように規格外の食品を扱うこの団体を教えてもらいました。

Q：実際に活動に参加し始めたきっかけを教えてください？

自分の仕事が落ち着いたので、ようやく来ることができました。活動を知ってからしばらくは来られなかったのですが、ずっと参加したいと思っ

てました。

Q：この団体では普段どんな活動をしていますか？

市場や物流センターへ車で食品を引き取りに行き、仕分ける作業をやっていきます。パンのにおい、野菜のにおい、お米の重さを感じると幸せになります。

Q：活動の中でやりがいを感じるのはどんな時ですか？



食品を引き取りに行った際や、私たちの団体の倉庫に食品が並んでいるのを見た時です。この食べ物が無駄にならずに済み、誰かに食べてもらえて、そして誰かを笑顔にする。そんな想像をして

幸せを感じています。やっぱり誰かに笑っていて欲しいんだと思います。

Q：活動の魅力は何ですか？

この活動は誰に何をしているのかがわかりやすいことです。それは食品を実際に使っている福祉施設や団体へ見学に行った際に、提供した食品を美味しそうに食べている様子を見ると特に感じます。

またボランティア活動を通じ色々な人と出会い、全く違う世界にいた人の話を聞くことができるのもとっても面白いです。

## フードバンク活動へ寄付のお願い

寄付いただいた食品を必要とする人へ届けるためには、倉庫代や配送費などの費用が必要です。私たちセカンドハーベスト名古屋の活動は、食品だけではなく活動資金も企業・個人からの寄付により成り立っています。皆様のあたたかいご支援よろしくお願ひいたします。いただきました寄付金は、生活に困っている個人や福祉団体へ食品を届けるために使わせていただきます。

銀行  
振込

三菱東京UFJ銀行 栄町支店  
普通口座 0015287  
特定非営利活動法人  
セカンドハーベスト名古屋

インターネットから  
寄付できるようになりました

セカンドハーベスト名古屋 寄付

